

事後評価調書(案)

I 事業概要																															
事業名	地すべり対策事業																														
地区名	四谷区域																														
事業箇所	愛知県新城市四谷地内																														
事業のあらまし	<p>四谷区域は、愛知県新城市に位置し、約 63ha が地すべり防止区域に指定されている。周辺には、「四谷の千枚田」に代表される農地や山林が存在し、人家や公共施設が点在している。昭和 57 年の豪雨により、地すべり活動が活発となり、昭和 63 年度より対策工事に着手した。その後、詳細な調査結果を踏まえ、平成 10 年度に計画を変更し、また、平成 18 年度には、それまでとは別の場所で新たな地すべり活動が確認されたことから、再度計画変更を行い、計画に沿って事業を実施した結果、平成 21 年度に計画した地すべり防止施設の整備が完了した。</p>																														
事業目標	<p>【達成（主要）目標】 人家 18 戸及び県道、市道、小学校、保育園などの公共施設、農地や山林を地すべりから保全する。 【副次目標】 なし。</p>																														
事業費	事業費	内訳																													
	8.91 億円	□工事費 6.57 億円、□用補費 0.09 億円、□その他 2.25 億円																													
事業期間	採択年度	昭和 63 年度	着工年度	昭和 63 年度	完成年度	平成 24 年度																									
事業内容	集水井工 2 基、集水ボーリング工 128 本、アンカー工 62 本、抑止杭工 63 本、法面工 1,890 m ² 、擁壁工 1 基、調査観測 一式																														
II 評価																															
①事業目標の達成状況	1) 主要目標の達成状況	<p>【達成状況】 ボーリングなどの地すべり調査によって定められた地すべり防止計画に沿って、工事を実施した結果、地すべり活動があった時と同規模以上の降雨があっても地すべり活動は生じなくなった。したがって、地すべり活動は抑えられており、保全対象は守られている。</p> <p><対策工事期間中の降雨発生状況と降雨後の現地状況></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ブロック番号</th> <th>工事期間</th> <th>工事完了前に地すべり活動がみられた雨量</th> <th>工事完了後の最大連続雨量</th> <th>対策工事後の地すべり活動の有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Iブロック</td> <td>S63~H6</td> <td>153mm (S61.06.16~17)</td> <td>207mm (H7.07.02~06)</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>IIブロック</td> <td>H7~H20</td> <td>306mm (H10.09.21~28)</td> <td>308mm (H21.09.21~28)</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>IIIブロック</td> <td>H21</td> <td>222mm (H18.07.17~21)</td> <td>348mm (H23.09.19~21)</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>IVブロック</td> <td colspan="4">現地踏査した結果、明瞭な地すべり活動が無いことから対策は実施せず。</td> </tr> </tbody> </table> <p>【達成状況に対する評価】 上記のことから、事業目標は達成している。</p>					ブロック番号	工事期間	工事完了前に地すべり活動がみられた雨量	工事完了後の最大連続雨量	対策工事後の地すべり活動の有無	Iブロック	S63~H6	153mm (S61.06.16~17)	207mm (H7.07.02~06)	無	IIブロック	H7~H20	306mm (H10.09.21~28)	308mm (H21.09.21~28)	無	IIIブロック	H21	222mm (H18.07.17~21)	348mm (H23.09.19~21)	無	IVブロック	現地踏査した結果、明瞭な地すべり活動が無いことから対策は実施せず。			
	ブロック番号	工事期間	工事完了前に地すべり活動がみられた雨量	工事完了後の最大連続雨量	対策工事後の地すべり活動の有無																										
Iブロック	S63~H6	153mm (S61.06.16~17)	207mm (H7.07.02~06)	無																											
IIブロック	H7~H20	306mm (H10.09.21~28)	308mm (H21.09.21~28)	無																											
IIIブロック	H21	222mm (H18.07.17~21)	348mm (H23.09.19~21)	無																											
IVブロック	現地踏査した結果、明瞭な地すべり活動が無いことから対策は実施せず。																														
2) 副次目標の達成状況	<p>【達成状況】 該当なし。 【達成状況に対する評価】 該当なし。</p>																														

② 事業効果の 発現状況	【費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化】				
			最終変更計画 (H18)	実績	備考
	事業期間		S63～H21	S63～H21	効果確認のため、 H24 まで観測を実施
	事業費 (億円)	工事費	6.51	6.57	
		用補費	0.09	0.09	
		その他	2.25	2.25	
		合計	8.85	8.91	
	効果の 算定 要因	保全対象人家	18 戸	18 戸	
		保全対象公共施設	3 施設	3 施設	
		県道、市町村道	県道 0.31km 町道 0.46km	県道 0.31km 町道 0.46km	
<p>【事業期間に対する評価】 計画期間内に事業を完了している。</p> <p>【事業費に対する評価】 最終変更計画とほぼ変わらず完了している。</p> <p>【効果の算定要因に対する評価】 保全対象人家は変化がみられなかった。保全対象公共施設 3 施設の内、小学校・保育園は現在廃止されているが、それぞれ避難所・公民館となっており、依然として、地域に欠かせない施設である。</p>					
③事業実施による 環境の変化	<p>集水井工、集水ボーリング工、アンカー工、抑止杭工などの地すべり防止施設は、小規模かつ点在するものであり、その設置にあたっては、地形改変を最小限にとどめたこと、地下水位の低下による生活環境への影響がみられなかったことなどから、事業実施による環境の大きな変化はみられなかった。</p>				
III 対応方針（案）					
今後の事後評価の必要性	事業目標を達成しており、今後の事後評価の必要性はない。				
改善措置の必要性	事業効果が十分に発現しており、新たな課題もみられなかったため、改善措置の必要性はない。				
同種事業に反映すべき事項	本事業は一般的な地すべり防止工法を用い適切に計画し、工事を実施したものであり、環境への影響も小さかったことから、同種事業に反映すべき事項は特になかった。				
IV 事業評価監視委員会の意見					
V 対応方針					